

シェルの株主総会

—エネルギー移行戦略、アクティビスト株主との攻防—

角 和 昌 浩 (かくわ まさひろ)

木 原 正 樹 (きはら ま さ き) 株式会社フューチャーネス 代表 兼 シナリオプランナー

要約 シェル (Shell plc) の年次株主総会は、毎年5月下旬に開かれる。近年シェルは、年次株主総会の議題のひとつに、自社のビジネスポートフォリオを低炭素化 / 脱炭素化してゆかんとするエネルギー移行戦略を上程して、出席株主にその妥当性を問うてきた。ここで気候変動アクティビスト株主は、毎年、会社側の移行戦略への対抗提案を持ち込んで総会の議題とするよう求め、会社側はそれを受け入れている。ただし株主総会の招集通知には、対抗提案に対する会社側の反論が掲載される。2023年と2024年の年次株主総会ではアクティビストの直接行動が見られた。

今回は、シェルの株主総会の話しをします。

株主たるもの、株主総会の中では会社側の用意した議題に沿って、あるいは議題にあんまり関係ないことでも、総会議長や社長に面と向かって質問ができるのだ。ただし、総会の運営ルールを逸脱しないよう紳士淑女的な振る舞いでお願いします、こんなイベントだ。

ところが、2023年/24年の年次株主総会では、シェルの考える長期エネルギー移行戦略を巡って、会社側とアクティビスト株主との間で、なかなか激しい攻防が見られた。このお話を書きたい。

1. 背景説明

1.1 年次株主総会の開催

シェルは毎年5月下旬に年次株主総会を開催する。前年度の業績を振り返り、今後の企業戦略を語る。また、トップマネジメントの人事とか定款変更とか、株主総会の賛成が必要な事項を採決しなければならない。

近年シェルの株主総会の開催場所がいろいろ動きました。

長年にわたって総会の会場はオランダのハーグでした。その訳は・・・この会社ロイヤル・ダッチ・シェル (Royal Dutch Shell) は100年以上前に成立したのですが、オランダ資本と英国資本の割合を60/40と

した成立当時のジョイントベンチャー契約を、そのままずっと、大事にしていた。だから長年ハーグとロンドンの2本社体制を踏襲し、2つの本社それぞれにホールディングカンパニーを作って、両社それぞれに株式市場に上場した。ここでオランダ / 英国の資本割合が60/40なもので、主たる株主総会の会場がオランダのハーグと決まる。ロンドン側は株主総会を実質的に省略していた。

ここで、読者諸兄すみません、一挙に2020年に飛びます。

2020年5月の年次株主総会もハーグで行われたのだが、コロナ禍のためオンラインでの開催となった。翌2021年5月の総会は、通常通り株主に会場に集まってもらってハーグでできた。

またまた別の話して恐縮ですが、シェルは2022年1月に、100年の2本社体制を廃止して、ロンドン本社に統一することを株主総会で決め、社名も「Shell plc」に変更した。「2本社体制はまったくの無駄、ナンセンス、やめたらどうか」という機関株主たちの長年のクレームに、ついに降参したのだ。だから2022年以降、総会の開催地はロンドンになる。会場はロンドンオリンピックを契機に再開発なった下町、イーストエンドのドックランド地区の貸会議場になった。

1.2 ロンドン統一本社の立ち上げ

ということで、最近時シェルのロンドン本社では、がぜん、株主総会関係の仕事が増えたのだそうだ。以下の記述には筆者の偏見がおおいに入ります。